

津波被害を受けたタイ漁村の復興に取り組む地方管理活動について

広島大学 ワンタナ・チェンキットコソン

広島大学 山尾政博

SEAFDEC パタリヤ・スアンラタナチャイ

要 約

タイのアンダマン海岸地方は、もともと生産性の高い沿岸地域であったが、2004年12月26日発生したスマトラ沖地震・インド洋津波により、これら地域の観光業や漁業は大きく被害を受けた。このため漁業者は、津波被災後、生計の維持やと収入の確保といった問題に直面している。これは将来持続不可能な沿岸資源利用を導くおそれがある。そこで本研究は、以下2つ課題のもと、被災地域の実態調査をおこなった。一つ目の課題は、津波被害が漁業活動に与えた影響を分析することである。二つ目は、津波被害が沿岸資源利用へ与えたマイナス効果に取り組む地域住民活動について調査を実施することである。これらの課題のもと、2005年6月から11月の間、漁獲漁業と養殖業の両方を行なわれている漁業地域を選択し現地調査をおこなった。調査地域は、アンダマン海岸にあるクラビ県とバンガー県である。調査結果により、政府やその他の機関からの支援活動は、漁業者が津波被災以前の状態に戻るために必要な要素であることが判明したが、漁業者や地方の諸団体自身もまた自分たちで取り組むべく努力していた。このように、地方分権化した住民参加型の支援活動と沿岸資源利用をとおして、地方分権型の管理アプローチが発展してきている。

キーワード：津波被害、被害の影響、復興、沿岸域資源管理、地方団体